









2019年度 保育所評価

評価意義	子どもの健全な心身の発達を図り、在園する子どもの最善の利益を考慮し、望ましい未来を創り出す。力の基礎を培う為に保育計画、保育の記録、実践を振り返り、自己評価を通して職員相互の話し合いをもとに、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にする保育所評価を行い地域に開かれた福祉施設の役割を示す。		
保育	「敬人愛人」の理念の基、社会福祉を目的とし、プロフェッショナル意識をもって、保育者、教育者として全職員が各々の能力及び知識を日々高め、結集し、地域社会に貢献する。また、家庭との連携を図り、積極的に家庭との協力を求め、豊かな人間性をもった子どもの育成を図る。		
保育	心を育てる 能力開発 健康な体づくり		
保育	保育理念の基、神を愛し、自然に感謝して、強く、優しく努力できる子どもの育成を図る。		
評価	生命の保持及び情緒の安定を図りながら、全体的な計画が子どもの育ちに関する長期的な見通しをもって作成し、子どもの実態に即した環境構成や主体的な活動が実践されその振り返りを踏まえた適切な改善がなされること		
	頑張ったこと・工夫したこと	課題・改善策	事例
子どもとの関わり	<p>〈健康〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護師との連携により保護者からの聞き取りや連絡帳を通し体調不良時の対応が迅速であった。アレルギー児への対応を室内に掲示し、注意喚起することで保育士同士情報の共有が保たれた。 <p>〈衛生・安全〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動後の手洗い、うがい、着替え等習慣の大切さと必要性が理解できるよう表示をした。 ハセッパー水噴霧により湿度管理、感染症流行期にはペーパータオルを使用するなど衛生管理に努めた。 散歩コースの危険箇所を共有する為の地図を作製し、散歩外出記録様式の変更をする。 <p>〈異年齢活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて週1～2回、3・4・5歳がクラスの枠をこえたグループ活動を計画する。 製作、戸外活動の他にクリスマス会に向けて、「劇」の背景作りに取り組んだり、グループごとに作品展の装飾下地を作りをするなど、協調性や社会性を育む経験を重ねた。 <p>〈食育活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫したジャガイモを年少児が洗い、年長児が皮剥きと短冊切りをし、ホットプレートでガレットを作りを行う。冬は、収穫後の大根をピーラーで剥き、切り干し大根を作る。又、昨年度に引き続き各家庭から空の弁当箱を持参し、自分で盛り付ける経験を通し、子ども同士で体をつくる食べ物について話す機会をもった。 	<ul style="list-style-type: none"> 嘔吐・下痢処理のマニュアルに基づき、迅速且つ的確な対処（室内消毒や児の体調管理など）看護師と連携し、二次感染防止に努めた。 体調不良児や発熱、嘔吐の情報は給食室にも知らせ衛生管理の徹底を図る。（ハセッパー水噴霧器による室内加湿・空気清浄） 散歩中の事故防止について、各クラスで散歩コースを再確認する。特に未満児が歩く羽黒小横の側溝の蓋の隙間の危険性を市に報告する。 異年齢活動では「味覚」をテーマに、子供たちのつぶやきや遊びの様子から、廃材を活用し、創作意欲をかきたてる環境構成を考え子どもたちの発想を大切にしたい取り組みになるように働きかけ作品作りに意欲をもち、子ども同士の関わりが深まるよう援助した。引き続き、テーマと活動が連続性をもって進められる様見通しをもった計画を立てていく。 食育活動について栄養士との意見交換の機会を積極的に持ち引き続き、クラスごとの取組みについて建設的に話し合っていく。 	<p>異年齢活動</p>  <p>食育活動</p>  <p>収穫感謝祭</p> 
保護者との関わり	<p>〈情報配信〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページにてクラスごとに子どもの活動写真を掲載、行事欄を設け、誕生会や運動会の取り組みの様子を伝える。また、パスワードを年2回設定し情報の保護に努めた。 作品展では異年齢クラスが味覚をテーマに廃材を用いて「和食」に因んだ製作物をNHKキッズを視聴して年中、年長児が身近にある廃材（ペットボトル・新聞紙）を利用した遊びを考える機会をもった。 <p>〈保護者対応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝夕（早番、遅番）登降園時に対応した職員が他の保育士と情報を（口頭や日誌）共有し、クラス担任は送迎時のやり取りや連絡帳からの記述に真摯に対応、内容によっては関係機関に繋げていった。年度末にはアンケートを行い、園の取り組みに対しての率直な意見を頂いた。 インフルエンザ等感染症の流行時期には園での発症状況や取組みを知らせ、予防に努めた。 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、登園時に保護者による園児の検温を実施、看護師による健康観察と室内の消毒に努めた。 保護者会と協力し合い、園の行事並びに清掃活動を円滑に進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で活動のねらいや活動の様子など可視化した保育を目指していく。未満児は活動の過程やつぶやき等をより具体的に掲示し育ちを伝えていく。 個人懇談での質問や意見は全職員で共有していくものの個人情報については慎重に取り扱いをしていく。また、保護者からの相談や電話でのやりとりは真摯に傾聴して報告、連絡をする。 情報発信ツールとして、年度初めに、新クラスへのメール登録確認を行い、全家庭の登録をお願いする。 園からのメール連絡事項を確認し、未読の家庭には再送する。 職員全員が話しやすい雰囲気をつくり、保護者の置かれている状況を考慮し、寄り添った対応をしていく。 <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の為、3月保護者会清掃を取りやめ、職員のみ清掃に切り替えた。引き続き状況に応じ、臨機応変に対応していく。</p>	<p>誕生会</p>  <p>ホームページ</p>  <p>保育参加</p> 
組織としての取り組み	<p>〈行事・活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度の経験や反省を踏まえ、各行事のリーダー保育士を中心に、姉妹園と連携を図りながらキリスト教主義の保育目標をもってプログラムを進めることができた。 合同職員会議園内研修において、「指示・命令・禁止用語」のない関わりで変わる保育環境と題し、事例を通して言い換えられる言葉や、主体的活動への取り組み方について考えた。 地域コーディネーターと連携し、それぞれの年齢に即した成長発達に必要な保育環境の在り方について関係機関と話し合う機会を持った。 また、研修を通し学んだこと「を園内研修」として職員会議の場で共通理解を図った。 保育月案、週案を通して活動内容を振り返り、計画から実践までを自己評価し次に繋げた。 <p>〈長時間保育〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 異年齢交流の場でもあり、長時間保育の充実を図る為に遊びの選択ができる環境づくりを行う。 18時以降は、個別性を大切にしたい遊びを取り入れ、ゆったりとした関わりが持てるよう配慮した。 <p>〈危機管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を通して避難時の心構えから避難方法を確認し職員の共通理解を図った。 散歩外出記録／園外保育連絡表を活用し、人数確認や安全面での配慮を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 未満児クラス担当と以上児クラス担当が行事に関して共通意識と理解を持ち、計画から内容の検討に至る迄の話し合いが出来る様、引き続き連絡会議の回数や時間の調整に努める。 一人ひとりの成長発達を踏まえ、「10の姿」を意識した「何を・どこが」「どう育て、どう育つのか」を意図して実践。 保護者へのアンケートを参照に、保護者からの意見も尊重し、成長を喜び合える機会としていく。 近隣小学校との連携では、学校訪問や参観だけでなく安全管理の観点から、避難訓練についても連携を模索していく。 こどもの人権を尊重し、柔らかく丁寧な言葉かけを身につけ引き続き見守る保育の姿勢を根付かせたい。 室内外で成長にあわせた運動機能を高める取り組みを積極的に行える仕組みを整える。 感染症対策や予防に対し職員間で共通理解をもつ為に、園内での研修計画をたて、実践していく。 	<p>保小連携 小学生体験</p>  <p>クリスマス会 厳かな礼拝</p>  <p>健康な体づくり</p> 